

石岡市教育委員会 教育長賞

「小さな思いやりが社会を変える」

石岡中学校 一年 山本 きい（やまもと きい）

「社会を明るくする運動」という言葉を初めて聞いたとき、私は少しむずかしそうだなと感じました。でも、調べてみると、この運動は「犯罪や非行を防ぎ、立ち直ろうとしている人を支えて、明るい社会を作ろう」という取り組みだと知って、私にもできることがあるのではないかと思うようになりました。

ニュースなどを見ると、毎日のように事件やトラブルが起きています。なぜそんなことが起きるのでしょうか。きっと、心がさみしかったり、誰にも助けってもらえなかったり、自分の気持ちを誰かに伝えられなかったりすることが原因のひとつだと思えます。

私は、「人の気持ちに気づくこと」「や

「思いやりをもつこと」がとても大切だと感じます。たとえば、友だちが元気がなさそうなとき、「どうしたの?」と声をかけてあげること。困っている人がいたら、「手伝ってあげようか?」と言ってあげること。それだけでも、相手の心が少し軽くなって、「自分は一人じゃないんだ」と思えるはずですよ。

また、社会の中には、あやまちをおかしてしまった人もいます。でも、その人たちが反省して、もう一度やり直そうとしているのなら、私たちはその気持ちを受け入れ、応援してあげることが大切です。あやまちをしたからといって、ずっと悪い人として見られるのはとてもつらいと思います。やり直すチャンスがある社会は、きっとやさしく、明るい社会だと思います。

私の家の周りとかでは、地域の人たちが協力しあい、おたがいにあいさつをしあったりして交流を深めていたりしています。こうしたいろいろな地域のつながりがあったりすると、子どもも大人も安心してくらせるようになるんじゃないかなと私は思っています。知らない人同士でもあいさつを交わしていける地域では、とてもあたたかく、地域での交流がとても深いと感じました。

そして、みんなが安心してくらせる社会を自分たちの手で少しずつ作っていきたいと思います。

たとえば、まわりの人としっかりとした関係をつくること。毎日あいさつをする、友だちの話をよく聞く、誰かが困っていたら声をかける。このよう

な行動がまわりの人に広がり、やさしさの輪がどんどん大きくなっていくと思います。明るい社会を作っていくには、むずかしいことや大きなことは必要ありません。私たち一人一人が、毎日の生活の中で少しでも相手の気持ちを考え、やさしくすること。それがいちばんの力になることを私は信じています。

これからも私は、人との関わりも大切にしながら、小さな思いやりを大切にしていきたいです。そして、自分から明るさを広げていけるように、学校でも、家でも地域でも、できることを続けていこうと思います。

「社会を明るくする運動」は、特別な人がやる活動ではなく、私たちみんなが主人公です。やさしい気持ちや行動があれば、どんな社会でもきっと明るくなれる。私はそんな社会をこれから作っていきたいです。

